

鹿屋市立大始良小学校 特別の教育課程の実施状況等について

1 特別の教育課程の概要

本校では、令和3年度～令和4年度、市内全小学校が文部科学省教育課程特例校の指定を受け、下述の 時数を確保し、現行の学習指導要領（外国語活動・外国語科）を踏まえて、「英語科」として先進的な英語教育の実践研究を推進しています。

英語大好きな子どもたちをイメージし、小学1年生から児童の興味・関心や理解度に合わせた英語を使って段階的に指導し、小学校6年間を通して、総合的にコミュニケーション能力の基礎を育成し、小・中一貫による英語教育の推進を図ることを目指しています。

学 年	1年	2年	3年	4年	5年(教科)	6年(教科)	総時数
年間時数	20	20	35	35	70	70	250
使用する教材等	オリジナル	オリジナル	Let's Try!1	Let's Try!2	教科書 My Book Picture Dictionary	教科書 My Book Picture Dictionary	

鹿屋市の英語教育の目指す生徒像

「地球規模で様々な問題を考え、郷土の魅力を生かして、英語を使って、能動的に課題解決に向けた行動を起こす児童生徒の育成」子どもたちが英語の学習に主体的に取り組み、コミュニケーション能力を育成した結果、郷土の課題解決に貢献したり、グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献したりする人材の育成を目指します。子どもたち・先生方・学校・保護者・地域が一体となって、「わくわく」するような授業を一緒に作り、多文化共生社会を生き抜く「グローバル人材」の育成を目指します。

2 本校の教育目標

やさしさとたくましさをもち、進んで学び、自らの可能性を広げていく子どもを育成する。

3 本校の令和3年度英語教育の実践について

(1) 1・2年生の取組

- 英語を楽しく聞いたり、発音したり、全身を使った表現活動を通して英語の音声やリズムなどを楽しむとともに、体験的な活動を通して英語や文化に親しみ、簡単な英語の語句や表現を使って、楽しくコミュニケーションを図った。

(2) 3・4年生の取組

- 英語を楽しく聞いたり、発音したり、全身を使った表現活動を通して英語の音声やリズム等に慣れ親しむとともに、体験的な活動を通して英語や文化に親しみ、積極的に英語の語句や表現を使ってコミュニケーションを図った。

(3) 5・6年生の取組

- 英語を楽しく聞いたり、発音したり、全身を使った表現活動を通して、英語の音声やリズム等に慣れ親しむことができた。また、身近な場面の中で体験的な活動を通して英語や文化への親しみを深め、英語の語句や表現を十分に活用して、積極的にコミ

コミュニケーションを図った。

- 大文字、小文字を活字体で書くことができた。
- 日常的な英語を聞いたり、話したりするなどの活動を通して英語や外国文化に親しむことができた。
- 英語の発音やリズムに慣れるとともに、英語の語句や表現を活用し、積極的にコミュニケーションを図った。

(1) 鹿屋市各地区英語教育圏推進会議について（小中一貫教育）

- 中学校の英語教諭と連携し、6年生の授業計画を行った。

(2) 校内研修体制について

- 校内研修で英語の研修を行い、研鑽を重ねた。

4 特別の教育課程の実施状況に関する検証結果

(1) 自己評価（児童）の結果から

英語の授業は楽しいですか。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
楽しい	81.5%	70.5%	71.4%	63.3%	45.3%	44.1%
どちらかというと楽しい	18.5%	24.6%	17.9%	22.4%	43.4%	42.4%
あまり楽しくない	0%	4.9%	3.6%	12.2%	7.5%	8.5%
楽しくない	0%	0%	7.1%	2.0%	3.8%	5.1%

(2) 自己評価（教員）の結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
53.3%	40.0%	6.7%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・ 積極的にコミュニケーションをとることにつながる。
- ・ 英語に親しむ時間が増える。
- ・ 人前で発表する機会ができる。

(3) 保護者評価結果から

Q1 お子さんは、英語の授業が好きですか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
41.5%	38.8%	18.0%	1.6%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・ 英語の苦手意識を持つことなく、スタートできると思う。
- ・ 文法などの苦手意識を持つ前に楽しく学んでほしい。

(4) 学校関係者評価結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
100%	0%	0%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。(自由記述、一部抜粋)

- ・ 早くから英語になじめることがよいことだと思う。
- ・ 将来の社会生活に役立つと思う。
- ・ 楽しみながら取り組めるようになるとよいと思う。

5 令和4年度の取組について

(1) 1・2年生の取組

- 英語の歌やゲームを通して、コミュニケーションを図る楽しさを体験する。また、簡単な挨拶や身の回りの物を表す英語を元気よく伝え、英語の音声やリズム等にふれる。

(2) 3・4年生の取組

- 英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、英語で聞いたり、話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力を高める。また、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る活動を取り入れる。

(3) 5・6年生の取組

- 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。また、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養い、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る活動を取り入れる。

(4) 鹿屋市英語教育圏推進会議と鹿屋市各地区英語教育圏推進会議（小中一貫教育）について

- 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

(5) 鹿屋市小中学校英語弁論大会（小学校：スキット部門）について

- 「My treasure」のスキット部門において、6年生児童から弁論大会に出場する。

(6) グローカル・イングリッシュキャンプについて

- 「おもてなしキャンプ」で英語への意欲喚起や英語弁論等の発表練習をする予定である。

(7) 国立台北教育大教育実習生の受入による交流授業並びに遠隔授業について

- 高学年を中心に、遠隔授業に取り組ませる予定である。

(8) スピーキングクエストの実施について

- 英検 I B A実施期間に、各学年の発達段階に応じて取り組ませる予定である。

(9) 校内研修体制（イングリッシュガイドブック・学習指導案等の活用）について

- 「児童自らが学習し、主体的・対話的で深い学びを展開するためにはどうすればよいか～国語科における話し合い活動の充実を目指して～」を研究テーマに、英語科の授業実践による検証や各種研修会参加による情報収集等を行っていく。